

2026 年 4 月 15 日

2026 年度第 1 四半期決算

バンク・オブ・アメリカは、2026 年度第 1 四半期決算を発表しました。

第 1 四半期業績【参考訳文(要旨)】

- 当期純利益は、前年同期における 74 億ドルから 17%増加し、86 億ドルとなりました。
 - 希薄化後 1 株当たり利益は、前年同期における 0.89ドルから 25%増加して 1.11ドルとなりました。
- 収益(支払利息控除後)は、純受取利息、販売及びトレーディング収益、資産管理手数料並びに投資銀行事業手数料の増加を反映し、7%増加して 303 億ドル(FTE ベースで 304 億ドル)となりました。
 - 純受取利息は、9%増加して、157 億ドル(FTE ベースで 159 億ドル)となりました。これは、グローバル・マーケット事業に関連する純受取利息の増加、預金及び貸出金残高の増加、並びに固定利付資産の金利更改に起因しましたが、金利低下の影響により一部減殺されました。
- 貸倒引当金繰入額は、2025 年度第 1 四半期の 15 億ドルから減少して、13 億ドルとなりました。2025 年度第 4 四半期と比較してほぼ横ばいでした。
 - 貸倒償却(純額)は、2025 年度第 1 四半期の 15 億ドルから減少し、また 2025 年度第 4 四半期の 13 億ドルから増加して、14 億ドルとなりました。これは主にクレジット・カードの季節要因に起因しています。
- 非金利費用は、収益に関連する費用並びに人材及び技術への投資の増加に起因し、4%増加して 185 億ドルとなりました。
 - 営業効率は、約 170 ベーシス・ポイント改善して 61%となりました。
 - 営業レバレッジは、2.9%となりました。
- 平均普通株主持分利益率は、12.0%となりました。平均有形普通株主持分利益率は、16.0%となりました。
- 平均資産利益率は、0.99%となりました。
- バランスシートは引続き堅調

- 平均預金残高は、3%増加して 2.02 兆ドルとなり、11 四半期連続の増加となりました。
 - 平均貸出金及びリース金融残高は、全事業セグメントで増加したため、9%増加して 1.19 兆ドルとなりました。
 - 平均グローバル流動資金は、9,600 億ドルとなりました。
 - 普通株式等 Tier1(CET1)資本は、2025 年度第 4 四半期から 17 億ドル減少して、2,000 億ドルとなりました。
 - CET1 比率は、11.2%(標準的アプローチ)となり、最低所要自己資本比率を大きく上回りました。
 - 約 20 億ドルの普通株式配当及び約 72 億ドルの株式の買戻しにより株主に対して 93 億ドルを還元しました。
- 普通株式 1 株当たり純資産は、7%増加して 38.66ドルとなりました。普通株式 1 株当たり有形純資産は、7%増加して 28.84ドルとなりました。

プレスリリース原文および注記は[こちら](#)をご参照ください。

※特に注記のない限り、記載されている比較(%)は前年同期比、また貸出金および預金残高は平均して表示しています。